


活動成果報告書

令和2年度（第24回）「チヨダ地域保健推進賞」

| | |
|---|--|
| 活動テーマ 若者のココロサポーター応援プロジェクト | |
| グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 茨木市 健康福祉部 保健医療課 代表者：野間 春香 |  |
| 勤務先：茨木市役所 所 属：健康福祉部保健医療課食育・健康増進グループ 所在地：〒567-0031 大阪府茨木市春日3-13-5 TEL：072-625-6685 FAX：072-625-6979 | |

◇活動方針

<背景>

年間自殺者数は年々減少傾向にあるが、追い込まれた末に自殺を選んでしまう人が少なくない現状が続いている。特に、10～39歳の若者の死因の1位が自殺であり、10歳代の自殺死亡率はほぼ横ばいで推移、若い世代の自殺対策が深刻な課題となっている。

本市では、平成31年3月に「茨木市いのち支える自殺対策計画」を策定し、庁内外の機関と連携し、自殺対策に取り組んでいる。本市においても、若い世代の自殺が課題となっており、中でも大学生や20～30歳代（女性）の自殺者割合が全国よりも高い数値を示しており、若い世代の自殺対策が必要と考える。そのため、若い世代への啓発活動や、若い世代と触れ合う機会のある市民へゲートキーパー養成講座を行い、若い世代のこころの悩みを早期発見し支援につなげていく必要がある。

<目的>

- ①若い世代（子育て世代や39歳以下の若者）と触れ合う機会の多い若者支援者へゲートキーパー養成講座を行うことで、地域全体で若い世代を見守り自殺対策に取り組む。
- ②ストレス反応やストレスとの付き合い方、悩んでいる人への声かけ、悩んだときの相談先について若い世代に周知する。

◇活動内容とその成果

<活動内容>

- ・本市の自殺の現状や自殺対策計画、ゲートキーパーについて記載された「茨木市いのち支える自殺対

活動成果報告書

策計画（概要版）」を市民や関係機関に配布

- ・若い世代向き健康手帳を市内の大学や高校に通う生徒に配布
- ・若年支援者へのゲートキーパー養成講座の実施
- ・こころの健康に関するリーフレットや啓発物品（エコポット・入浴剤・ハートの風船）を配布

<活動成果>

【ゲートキーパー養成講座】

実施回数：2回 60人

対象者：つどいの広場（就学前までの親子が気軽に集い交流する場）のスタッフ
ユースプラザ（中学生～若者の居場所、市内に5か所あり）のスタッフ



アンケート結果：自殺の正しい知識の習得について、約8割の人が「概ねできた」「できた」と回答
自殺の危険性に対する気づきや声かけのスキルの獲得について、約7割の人が「概ねできた」「できた」と回答

参加者の声：茨木市でこんなに多くの方や若い人が亡くなっているとは知らなかった
様々な相談機関があることを知ることができた

【啓発活動】

茨木市いのちを支える自殺対策計画（概要版）

配布先：ゲートキーパー養成講座参加者、民生委員児童委員、その他関係機関



若い世代向き健康手帳

配布先：ユースプラザ5か所、茨木市こども・若者自立支援センター、市内大学に通う大学生、高校生
配布部数：計1500部



活動成果報告書

こころの健康に関するリーフレットや啓発物品（エコポット・入浴剤・ハートの風船）

配布先：乳幼児健診受診者、つどいの広場、ユースプラザ、図書館、飲食店、理容室等



◇今後の計画

多くの若者にこころの健康について意識してもらうため、高校や大学の教育機関だけでなく若い世代やその家族も利用する飲食店やファーストフード店、図書館等の施設で啓発活動を行うことで、より効果的な啓発につながったと思われる。

今後の計画としては、近年多くの若い世代が SNS を活用し情報収集している現状があり、こころの健康づくりや悩んだときの相談先について、SNS を活用して周知する方法の検討が必要。一方で、不適切な SNS の利用により、不特定者からの誹謗中傷等で自殺に追い込まれる若い世代もいるため、情報リテラシーと自殺対策を関連させた教育を、中・高校生や大学生に対し実施していきたい。

また、新型コロナウイルス感染症による生活の変化への不安等から、自殺者数が増加しているため、多くの人々が利用する市内の運動施設、遊技施設、生活必需品物資販売施設等と連携してこころの健康の周知啓発を重点的に取組む必要があります。